

第4回洞爺湖町教育行政審議会（会議録）

日 時：令和6年8月2日 金曜日 午後1時30分～午後3時00分

場 所：洞爺湖町役場3階 防災研修ホール

出席委員：◎会長 ○副会長

区 分	氏 名	出欠	区 分	氏 名	出欠
1号委員 (学校教育)	内山 勇一	○	4号委員 (教育有識者)	◎鈴木 淳	○
	横山 慎二	○		○上林 宏文	○
	千葉 佳貴	×	5号委員 (公共的団体)	福島 正和	×
2号委員 (社会教育)	木村 省平	○		秋山 伸吾	×
	泰地 ひとみ	○		田伏 ひとみ	×
	京谷 常美	×		三浦 和則	○
	宍戸 一江	○		宮本 好	○
	佐々木 小代子	○		佐藤 義昭	×
	川上 由起子	○	6号委員 (公募)	浅利 弘樹	○
3号委員 (保護者)	白井 隆子	×		國井 一宏	○
	長谷川 尊裕	○		高久 裕子	○
	高橋 洋一	×			
	折原 亜紀	○			
	傳 尚邦	○			

(事務局)： 教育委員会 山本教育指導参与

教育推進課 細江課長

大楽係長

社会教育課 角田課長

○細江教育推進課長

時間となりましたので始めさせていただきたいと思います。

本日の出席者が16名ですので、審議会条例第7条3項の規定に基づき、委員の過半数を超えておりますので、ただ今から第4回行政審議会を開催いたします。

次第2の会長あいさつでございます。

○鈴木会長

今日は第4回目の審議会ということで、ワークショップでお1人お1人の声をグループと全体で共有し、皆さん方の声を吸い上げながら、答申に皆さん方の声を組み合わせることができればというふうに事務局の方で準備しておりますので、ぜひ忌憚のない意見を出していただき、それを組織全体で共有していければと思います。

私も様子を見させていただきながら、最後にちょっと感想も含めてお話ししたいと思います。今日は時間の許す限りということでよろしくお願いいたします。

次第の3ということで、第4回の会議について（1）と（2）に示されている内容について、協議の流れも含めて事務局から説明よろしくお願いいたします。

○山本教育指導参与

皆様こんにちは。ワークショップを担当いたします山本と申します、どうぞよろしくお願い申し上げます。

1回目と2回目の部分で、課題と今後の目指す姿というところの町の方向性というところを確認しまして、そこで出た意見を資料等で事前に配布いたしました。それと、本日お配りした1枚もので、前回会議の中で人口の推移と町の計画の進捗状況についてご質問がございましたので、それぞれその地区の年齢ごとの中学3年生までの人口の状況と、ページの裏には町の計画の進捗状況はどうなっているのかというところ。基本目標3の自然豊かなまちの魅力を生かし、結婚・出産・子育ての希望を叶えるというところの数値目標を載せております。その2行目の0歳から18歳の人口減少抑制というところで、毎年数値は減っている中で、目標値としては889人。基準年の令和1年が1,000人と上回っていますが、令和5年には856人となっております。婚姻数の目標値は40件のところ令和1年は27件で、その後も満たしていない状況。出生数の目標値は43人となっております。一番下は虻田高校への入学者数ということですが、括弧の中が洞爺湖町内から高校に入学している数字となっております。追加資料ということでお配りいたしました。

本日のワークショップは1時間半程度ということで、皆さんのご意見を書き出して、それを見える化していきたいなどに思っています。

ワークショップの内容ですが、ソフト面とハード面ということで、机上の模造紙にどんどん付箋の方に書いて貼付け、それを見える化して行ってほしいと思います。

す。実際自分がやった場合には何を書けばいいのだろうと悩んだのですが、皆さんが思っている疑問でもいいですけど、これちょっと気になるなというところや、理想でもいいです、そういったところを全部外に出し切っていただきたいです。それを事務局の方でまとめて整理し、次回に繋げていきたいと思っております。ソフト面、ハード面と線を引いてはいるんですけども、ハード面だと思っても、もしかしたらソフト面に入るんじゃないかとか、ソフト面だけハードの方に入る部分もあるかもしれませんが、そういったところで目指す洞爺湖町の教育内容、地域の保護者の願い、こんな子どもになってほしいなとか、施設だったり人との関わりであったり、こういった人が洞爺湖町にいて、こういった活躍をして活性化されている、もしかしたらこういった活動が、教育の方にも関連できたら面白いんじゃないかなとか、そういった仕組みや情報でも構わないと思います。あと、自然環境をどう生かしていくかというところもどんどん出していったらいいなと思います。

ワークショップの流れですが、初めに付箋にマジックで意見を書いていっていただきたいです。できれば短い単語をどんどん書いていく。その時間を7分程度設けます。その後、それを模造紙に貼っていただきます。それを今度は分類化をしていって、最後にグループでまとめるというような流れでございます。

縦に線を引っ張ってありますが、あんまり気にしないでいいので、やりながら移動したりしてもいいと思います。一応左側がソフト面、右側がハード面です。あと、これはもしかしたらすぐ実現できるんじゃないかな、というようなものは模造紙の上の方に、逆に実現が難しそうだと思うものは下の方に貼っていき、グルーピング化していったらいいなと思います。

これはあくまでも例ですが、ハード面では町や地域にこういう施設があればとか、子どもたちが集まれる場所があればいいのかな、というようなそういったこともハード面ということで、付箋に書いたものに説明つけながら一つずつ貼って行ってください。もしかしたらこの意見は自分とちょっと重なるかな、というところはまとめて分類化していただき、そこにキーワードになるような言葉を記入していったらいいなと思います。

ワークショップをやる上でのルールは自由に発言をする、相手のアイディアを批判しない、人の意見と違っててもOKです、とにかく、今日は皆さんの意見を可視化して共有を図っていきたいなと思いますのでよろしくお願いいたします。

ここまでで質問等はよろしいですか。

《なしの声》

それではどうぞよろしくお願いします。

#### ○山本教育指導参与

それではホワイトボードをこちらに用意しましたので、B・C・Dグループの順番でこちらに来ていただいて、内容をお話していただき全体で共有していきたいと思います。

#### ○Bグループ

Bグループです。ソフト面では、子育て・子ども像ということで、こんなふうに育って行ってほしいなということ、例えば「はい」と言える子ども、人の話しは目を見て聞ける、などの基本的なところですけども、あとは自分の命は自分で守るという考え方、どこに行っても生きていける子、あとは、お金の使い方を考えられる、お金についての考えが最近ちょっと麻痺してきているのではないかと、お金がなくても買える時代ですので、そういう意味でもきちんと教える必要があるんじゃないかと。ここに挑戦・協働・調整と書いてありますけども、これは洞爺中学校が掲げている3つのCとなっています。これは洞爺の地域に、私はすごくある力だなと思っていて、それをそのまま継続して私は子どもたちを伸ばしていってあげたいと思って掲げている3つのCです。

それからハード面はですね、どうしても高校進学って考えたときに、なかなか選択肢が少ないということですね。もちろん虻田高校さんや開来高校さんの支援なんかもあるんですけども、やっぱりその自分の学力に合ったり、自分の学びたい学校に行くためにはどうしても支援が必要だと、そういったところのサポートや、別の地域に行ったときのサポートがあるといいなというご意見がありました。

それから、自然環境を生かした教育。これはもう今も続けていることですけども、これはもう継続していったらどうかなということ。それからですね、中間にありますけども、やっぱり日本文化をきちんと身につけるべきではないかと。日本文化を身に付けるってということは、国際的な視野に立てる子どもを育てるって意味では英語力をつけると。ものすごくこれは表裏一体かなと、どっちも大事な事かなと思いながら話が出ておりました。

それからハード面の施設という面で、洞爺の給食が美味しいというのはもう本当に何十年も前から続いていることなので、その良さを何か生かして人を呼べないかと、その良さをもっと充実させてはどうかという意見もありました。それからやはり子育てをこの町でしたい、というようにするためにはやっぱり教育の充実が必要だろうということで、学校教育を軸にしたまち作り、それから付随してもっと発展させて子どもからお年寄りまで集える一体的な施設ですね、そういった、それらお金もなかなか無い中ですので、学校を増改築というか、今あるものを最低限使って作ってはどうかというような意見がありました。

はい、そんなところでよろしかったですか、以上でございます。

## ○山本教育指導参与

続きまして、Cグループ前の方に出てきて発表をお願いします。

## ○Cグループ

ソフト面は学力で言うと算数ができる子ですね。チャレンジ精神で言うと、失敗を楽しめるような子ども。三つ意見が揃ったのが、優しさ思いやりっていうところで、助け合いの心を持ってほしい。思いやりがある子ども、学力よりも優しさのある子みたいなのところですね。夢・自立っていうところのグループとしては、自分のことが大好きって思える子ども。子ども1人に対して親とか先生以外にも1人心許せる大人がいるような環境みたいな、あと、大きな夢を持ってほしいとか、好きなこと、得意なことを仕事にできるようになってほしいとか、あとは自立心がある子ども、自分で考えることができる子ですね。あと、ふるさと愛。これは本当に意見を出した4人とも1人一つずつあってですね、やっぱり洞爺を愛する子どもになってほしいとか、洞爺が大好きだとかって感じてほしい、ふるさとを愛する子ども、卒業後地元へ戻ってきてくれるってことですね。専門学校とか大学とかがないので、外に出て行くのはどうしてもしょうがないけれども、その後に戻ってくると、仕事を目指して戻ってくるような、そういった子どもに育ててほしいなと。あと親の仕事を理解していただきたいなみたいなところですね。

ハード面のところでは、学校教育のところではチャレンジする教育っていうふうになるんですけども、うまくいかなかったとしても新しい学習方法がいろいろあるじゃないですか、いろんなものに取り組んでみて、うまくいなくても何かどんどんチャレンジしてるよっていう、なんかいろんなこと洞爺でやってるよ、みたいなふうに見えるといいのかなと思って書いてあります。あと、部活動の選択ができる学校ですね。ここが一番グループとして多かったのが、放課後の後の施設ですね、休みだとか放課後に子どもたちが子ども以外にも、先ほどのBグループでもお話ありましたけど、他の異年齢の人たちも集まれるような、気軽に通えるおしゃれな生涯学習センターのような、図書館は必ずって書いてありますけれども、そんなものが欲しいと。あとは休みに子どもが集まれる遊べる場所。昔は何でしたっけ、児童館や公園とかもあったけれども、それがなくなってしまっているのが集まれる場所。あとは放課後の自習室みたいなものがあったりだとか、あとは子どもの居場所がいくつもあるような空間ですね。あと、ITを活用できる場所ですね。プールでは温水プールがあればいいかなっていう話と、あと人との関わりでは地域の人材活用できればいいかなっていう話があって、こんな感じでグループになりました。

僕たちはまとめた後に一つ一つふるさと愛がいいよねって。「いいよね」までは言えるんですけども本当にふるさと愛を実現するために、どんな子どもたちに関わりがで

ればいいのかとか、どんな関わりすれば本当に洞爺のことを愛するとか、大好きだとか、戻ってきたいって思う子どもたちになるのかなっていうところのちょっと意見交換をしました。ただ、なかなかこれというのは難しいなって思いつつも、そこを一步、いろいろちょっと解像度高く話し合っていればいいのかと考えてました。

以上です。ありがとうございます。

#### ○山本教育指導参与

ありがとうございます。次Dグループお願いいたします。

#### ○Dグループ

最初うちのグループでは練習で洞爺湖町の好きなところっていうのを挙げてもらったんですね。ここにちょっと書いてきました。

やっぱり自然豊かな、そして人との触れ合いがとても豊かだっていう、この二つが洞爺湖町のいいところだっていうことで挙がっていました。

それでは、次の説明者になります。

はい、いま前半は予行練習ということで、こういう町の好きなところということ、豊かな自然と人との触れ合いを何かいいなっていう、ソフト面のところで皆さんとお話ししたところから本題に入らせていただきました。

ソフト面なんですけれども、一応、学力・自立・コミュニケーション・自然・体力・芸術という、こういうジャンルでまとめることが、私達のグループでできました。学力に関しては知識欲、オールマイティーでなくても何か一つのテーマを考えると、あと、自立は自分で自分のことを考える判断力、あと、体力はその名の通り体力がある元気な子どもたちっていうことですね、コミュニケーションに関しては、人とのコミュニケーションを取れる、認められる子どもたちっていうことで、そういうお話が出ました。また、自然環境を大切に考えられる、自然に興味を持つっていうことも大事ではないかっていうことで、ソフト面は私達のグループは学力・芸術・自立・自立・体力・コミュニケーション・自然ということで一応グループ分けすることができました。

それに対してハード面なんですけれども。まず、学びの充実。専門的知識を持ったなんか教育の配置とか、学校での学習内容の個別対応とか、あと多様性ということで、違って同じでも良い、その子を自然に受け入れる力があってもいいんじゃないかっていうお話も出ました。あとは資格に関して、何か資格を取るための準備ができるような施設があり、そういうシステムがあったらいいなっていう話もありました。あと、ここは災害の町ですので、やっぱり防災。防災に関して防災と関連したような施設があるといいのではないかというお話も出ました。それから地域学習ということ

で、海外の方のお力を借りた語学力なり、そういう知識としての言語力ですか、あと総合的学習社会見学、それから地域の人たちと触れ合いを取れるような機会があるといいんじゃないだろうか、というお話が出ました。また、あと運動に関してはスポーツ公園総合体育館、あとスポーツ少年団などの交流ということのお話が出ております。

最終的には自然ということで、身近に洞爺湖の自然に触れる機会があれば、子どもたちの心も少しやっぱり育てることができるのではないかというお話が出ておりました。

以上をもちまして、Dグループの発表を終わらせていただきます失礼いたします。

#### ○山本教育指導参与

短い時間でのご協力どうもありがとうございます。

皆さんからいただいた貴重な意見を、それぞれ出された中で共通する部分などをこれからまとめて整理し、実際にどうしていくか次の会議で深堀して行って、また追加でお話ができればいいなと思います。

それではワークショップの方を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

#### ○鈴木会長

はい、それではご苦勞さまでした。まずは事務局の方から、この後の日程等も含めて事務連絡をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

#### ○細江教育推進課長

長い時間にわたりご意見ありがとうございました。次回の会議につきましては、8月の下旬を予定したいと考えております。この後日程調整をさせていただきまして、来週中にはご連絡をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今回は今回の内容をまとめた分類を事務局の方で整理し、それぞれについてワークショップを重ね、具体化していきたいと思っておりますので、ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○鈴木会長

はい、それではこれで会議を終わりたいと思うんですけども、ちょっと私の方から感想も含めてですね、ちょっと若干お話をさせてください。

初めてこういう熟議というか、ワークショップをやったっていう方、挙手をいただけますか。

《挙手なし》

多分皆さんベテランなんですね。

いや本当に熱心にいろいろと自分の経験値だとかお話しいただきながら、付箋に書いて、うまくファシリテーターの先生方を中心にああいうふうに1枚の模造紙に見える化した、構造化したっていう形で、あれは多分この後、次回以降ですね事務局からのテーマだったり、冒頭に私申し上げましたけど、これは答申に向けてのいわゆる具体的な内容がどれだけ拾えるかっていうところがあるので、私も教員経験あるんですけども、やっぱり教育の言葉って難しいですよね。やっぱりそれをより具体的にわかりやすく、町民の方々や洞爺湖町の子どもたちが、なるほどなって、ストンと落ちるかどうか、その言葉が多分今日出てきた付箋の中にもいっぱいありますので、ぜひそのあたりは多分事務局を中心にですね、拾っていただけるとありがたいかなと思います。

これで具体的に目指す子ども像とか、期待する子ども像っていうのが具体的に出てきたので、一つの方向性は共有できたかなというふうに思うんですね、これを実際に今度は答申の中にどう盛り込んでいくのか、ただギャップってありますよね、結局こういうふうに目指して期待してるけど無理でしょっていう。それが多分ハード面の内容だと思うんですね。そこはやっぱり答申の中にも入れ込んでいいのかな。要するにこの審議会としてですね、これをぜひよろしく願いますっていうことで、これは教育長から諮問を受けたので、我々を中心にその答申の中に入れ込むかって形になるので、ぜひ次回はより踏み込んだ形でお話ししたいと思います。

もう一つは最初にソフト面は非常に書きやすかったというか、やっぱりこんな子どもとか、それに見合うハード面っていうのは、いやちょっとこれ厳しいよねとか、多分そのソフト面とハード面の関係性がこれからいろんなギャップとして出てくるのかなと思うので、それは皆さん方それぞれの立場で知恵を出し合うとか、昔の既存のものを使うだとか、いろんなアイディアをぜひこの審議会の皆さん方の中でちょっとこう考えていくのも一つかなっていうふうに思って、それぞれのワークを聞いていました。

もう一つちょっと私お話ししたかったのは、各委員皆さん方お1人お1人のフィルターが違うじゃないですか。生まれたところも経験値も実践値も、そしてそれぞれの観（カン）も違うんですね。地域観とか学校観とか、多分そういうところがこういうふうに合わせることによって、きっと何か具体的なものがこの答申の中に一つでも二つでも盛り込めれば、この審議会として渋川教育長からの諮問を受けた形で答申しましたっていうふうになると思うので、あとは限られた予算なので、限られたエリアなので、または人口もこれ以上増えるっていうのはなかなか難しいという話も出てましたので、それをどうするかっていうあたりがこれからこの審議会の中で議論できればかなと思いますので、ぜひ次回はそのあたりもちょっと一歩踏み込んでみると、より何か具体的なものが見えてくるのかなっていうふうに思いますので、ぜひそんなことも



含めて次回8月の下旬というふうに先ほど事務局からありましたけども、まだ8月下旬だったらお暑いと思いますけども、そんな形でお集まりいただければありがたいなというふうに思います。

以上で今日の審議会の方は終わりたいと思います。どうもご苦勞様でした、ありがとうございました。